

富山県感染症発生動向速報

(2026 年第 30 週分・7 月 20 日～7 月 26 日)

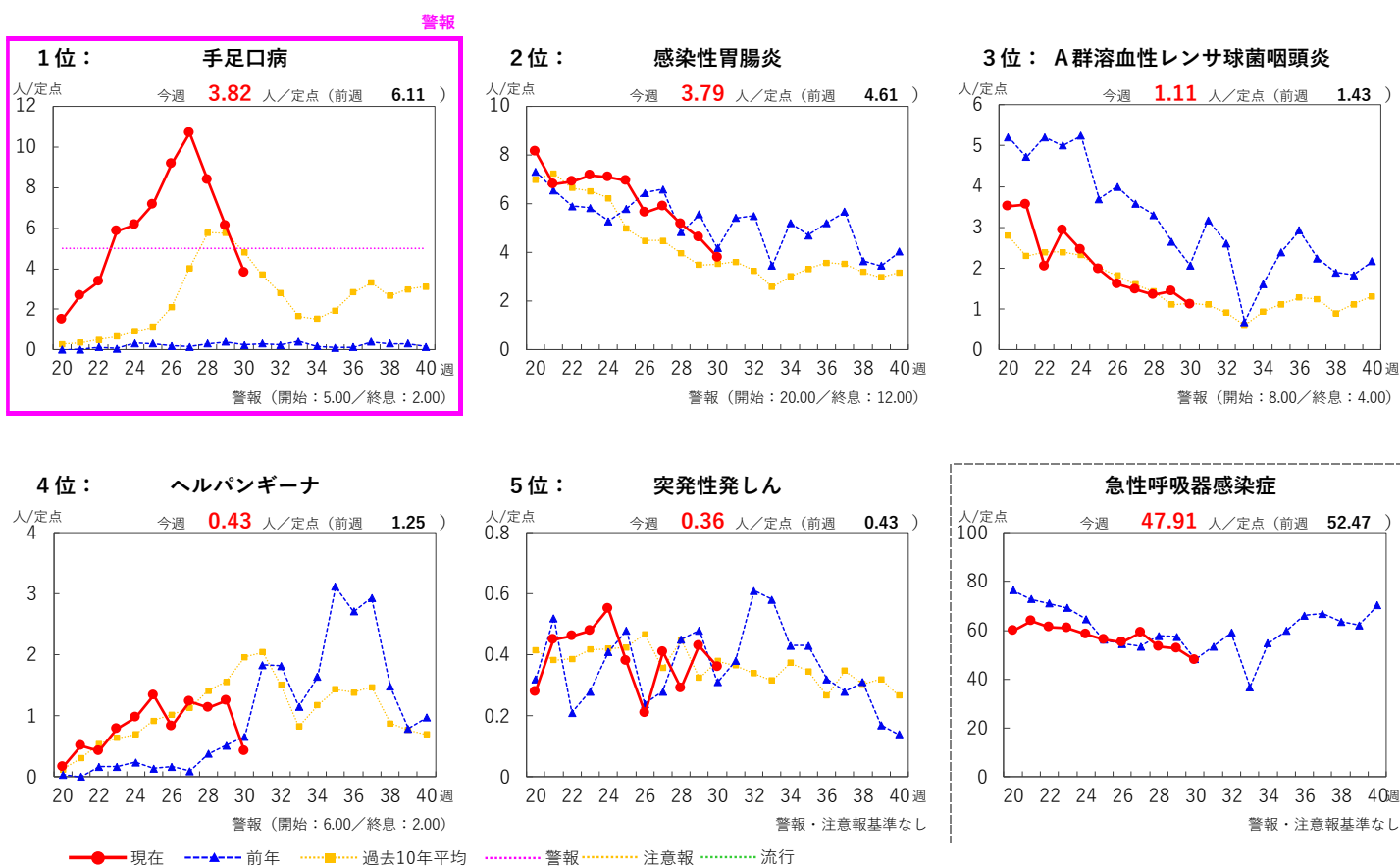
■今週の主な動向

○手足口病の報告数は先週からさらに減少しましたが、依然報告数が多い状況です。

報告数は減少が続いており、今週 3.82 人/定点となりましたが、警報レベルの終息基準値（2.0 人/定点）は上回っています。患者は 2 歳以下の乳幼児が中心です。特徴的な症状は、手のひらや足の裏、口の中の水疱を伴う発疹です。おむつ交換やトイレの後、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。（[第 29 週インフォメーション参照](#)）

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症（第 30 週・7/20～7/26）



厚生センター（保健所）管内別、直近の推移：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#a-6>

■全数報告の感染症

二類感染症 結核 4 件（①第 29 週診断分：60 歳代、女性 ②30 歳代、女性 ③80 歳代、女性 ④90 歳以上、女性）

三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 件（40 歳代、女性、O157、VT1VT2）

四類感染症 レジオネラ症 1 件（60 歳代、男性、肺炎型）

五類感染症 水痘（入院例） 1 件（40 歳代、男性）

梅毒 1 件（50 歳代、男性、早期顕症梅毒Ⅱ期）





県内の梅毒が昨年最多！ 早期発見・早期治療が重要です

《 インフォメーション 》

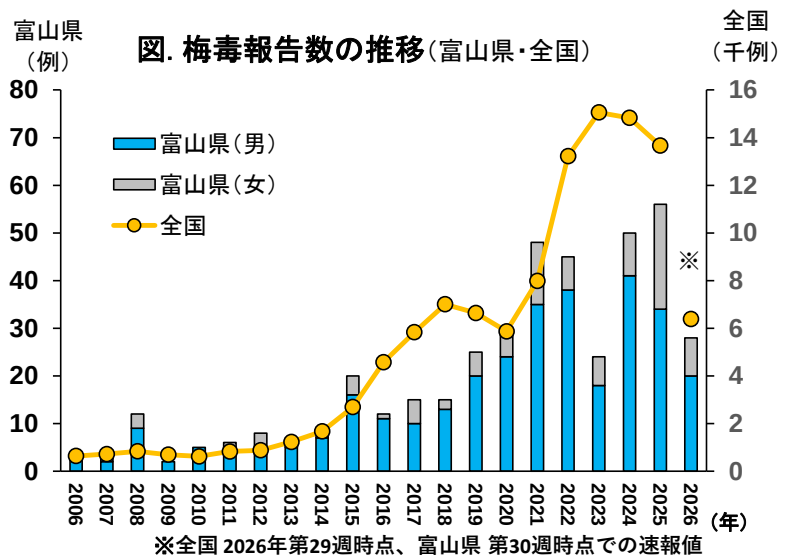
●梅毒

梅毒は、梅毒トレポネーマ（細菌）を原因とする感染症で、主に感染者との性的接触によって広がります。感染すると、潜伏期、早期顕症梅毒Ⅰ期（感染部位にしこりや潰瘍）、早期顕症梅毒Ⅱ期（体幹、手掌、四肢に赤い斑点様発疹「バラ疹」）という経過をたどりますが、Ⅰ期とⅡ期の間に症状がない潜伏梅毒の時期があり、これが受診の機会を逃す一因となっています。なお、潜伏梅毒はⅡ期以降にも現れ、数年～数十年後に、皮膚や骨のゴム腫、心血管梅毒を発症することがあります（晩期顕症梅毒）。また、感染した妊婦から胎児へ感染し、流産や死産、先天異常（難聴、肝脾腫、角膜炎、骨異常、心奇形、歯の異常等）、精神発達遅延等を持った状態、すなわち先天梅毒となることがあります。

全国の梅毒報告数は 2011 年頃から増加傾向となり、2023 年をピークに減少に転じたものの、2025 年は 13,662 例の報告がありました（図：折れ線グラフ）。なかでも全国の先天梅毒の報告数は 2018～22 年には 20 例/年程度であったのに対し、2023～25 年には 30 例/年以上に増加しています。

県内の梅毒報告数は、男女ともに増加傾向にあります。2025 年には 56 例の報告があり、感染症法施行（1999 年 4 月）以降で最多となりました（図：棒グラフ）。2026 年は第 30 週時点で、28 例の報告がありました。直近 5 年（2021～25 年）の感染者は、男性では 30 歳代、女性では 20 歳代が最も多く、男性では 20～60 歳以上、女性では 20～50 歳代に幅広く分布しています。感染経路は主に異性間の性的接触で、病型別報告数では、男性ではⅠ期、女性ではⅡ期が最も多くなりました（[富山県／富山県の梅毒の発生状況](#)）。

梅毒は主にペニシリン系抗菌薬による治療が可能で、早期の治療が重要です。少しでも心当たりがあれば、早めに医療機関を受診しましょう。また、パートナーも感染の可能性があるため、受診をお勧めします。なお、厚生センター、保健所では、匿名で相談や検査を受けることができます[[梅毒、クラミジア検査：富山県](#)、[HIV\(エイズ\)性感染症相談・抗体検査：富山市](#)]。感染予防には、不特定多数との性行為を避けること、適切にコンドームを使用することが不可欠です。また、妊娠後期では先天梅毒を防げない場合があるので、妊娠がわかったら早めに妊婦健診を受けましょう。



○感染症発生動向調査報告状況（2026年第30週 2026年7月20日～2026年7月26日）

分類		疾患	今週報告分（第30週）						累積報告数（2026年第1週（2025年12月29日）～）					
			新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
全数把握	二類感染症	結核		1		1	1	3	4	3	14	8	30	59
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く				1		1	4	1	5	7	19	36
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症					1	1	2		6		3	11
	四類感染症	E型肝炎									1		1	2
		デング熱											1	1
		マラリア											2	2
	五類感染症	レジオネラ症			1			1	1	2	7	1	10	21
		急性脳炎							1				1	2
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症									3	1	6	10
		後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）											1	1
		侵襲性インフルエンザ菌感染症									2		4	6
		侵襲性肺炎球菌感染症							2		7	2	5	16
		水痘（入院例）			1			1	1	1	2		3	7
		多剤耐性緑膿菌感染症											1	1
		梅毒	1					1	4	2	9		13	28
		破傷風											1	1
		百日咳							1				7	8
		麻しん									4		4	8
定点把握（上段：報告数、下段：定点医療機関当たりの報告数）	急性呼吸器感染症（ARI）定点（47定点）	急性呼吸器感染症（※1）	196	187	730	186	953	2,252	9,017	8,257	31,115	8,670	39,499	96,558
			28.00	37.40	56.15	26.57	63.53	47.91						
		インフルエンザ							1,443	1,211	3,348	1,431	4,693	12,126
	小児科定点（28定点）	COVID-19	3	1	5	4	2	15	278	147	310	159	527	1,421
			0.43	0.20	0.38	0.57	0.13	0.32						
		RSウイルス感染症			4		4	8	29	11	154	28	113	335
					0.50		0.44	0.29						
		咽頭結膜熱			7			7	32	23	236	1	77	369
					0.88			0.25						
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	13	3	14	31	150	198	1,389	225	1,298	3,260
				0.33	1.63	0.75	1.56	1.11						
		感染性胃腸炎	9	5	10	7	75	106	728	627	1,120	291	3,690	6,456
			2.25	1.67	1.25	1.75	8.33	3.79						
		水痘			4		1	5	3	17	44	9	102	175
					0.50		0.11	0.18						
		手足口病	5	14	20	5	63	107	32	154	670	100	973	1,929
			1.25	4.67	2.50	1.25	7.00	3.82						
		伝染性紅斑				2		2	8	3	26	11	13	61
						0.50		0.07						
		突発性発しん			5		5	10	6	20	94	24	105	249
					0.63		0.56	0.36						
		ヘルパンギーナ	1	1			10	12	17	45	62	14	143	281
			0.25	0.33			1.11	0.43						
		流行性耳下腺炎					1	1	3		4	4	8	19
							0.11	0.04						
	眼科定点（7定点）	流行性角結膜炎							9	2	13	1		25
	基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎					1	1					2	2
							1.00	0.20						
		無菌性髄膜炎							2					2
		マイコプラズマ肺炎					1	1	9		3	4	6	22
							1.00	0.20						
	入院サーベイランス（5定点）	クラミジア肺炎										2		2
		感染性胃腸炎（ロタウイルス）									1	1		2
	入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）							55	41	49	40	102	287
		COVID-19による入院患者	1					1	19	17	7	11	58	112

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2025年第36週（9/1～）の集計です。